

# 旧吉田茂邸再建に向けて

連載シリーズ 12

## 大磯の賢人 吉田 茂

### 国際連盟脱退

吉田は、「国際連盟発足当初からの常任理事国である日本の地位は、第一次大戦におけるわが国の功績の結果、かち得たもので、国際的な政治、外交、経済の諸問題に、大国の一員として発言し得る唯一貴重なる権利である」（『回想十年』第四巻）と認識しており、「如何なることがあってもこれを自ら放棄するのは、日本の為めにならぬ」（同）として、国際連盟脱退を頑なに反対していました。



▲奉天城内小西門上の日本軍  
(写真/「満洲事変写真帖」所収  
国立国会図書館ウェブサイトより転載)

昭和7年に公表されたリットン報告書の内容は、満州を巡る日本の軍事行動を自衛行動とは認めず、また、満州国建国を自発的な自治運動による結果としても認めないものでした。さらに満州に中国主権下の自治政府を設けることを提言しています。しかし、日本はこの時既に満州国を承認しており、報告書に反発、吉田の主張とは裏腹に国際連盟脱退への道を歩んでいました。

昭和8年2月に開かれた国際連盟臨時総会ではリットン報告書（勧告案）を採択するかどうかの審議が行われました。この時日本全権として派遣されたのが松岡洋右です。吉田と同様、外交出身の松岡は、退官後、南満州鉄道株式会社の理事を経て代議士となった人物です。抜群の英語力を誇り、強気且つ自信家であった松岡が派遣されると聞いた吉田は、これまでの経験から「全権は議論しに行くのではなくて、寧ろ事を纏めにいくという性質（原田熊雄『西園寺公と政局』だと考え、元オーストリア駐箚大使の秋月左都夫を同行させるよう説得します。しかしこの提案を拒否された吉田

◎問い合わせ  
郷土資料館 学芸員  
曾根田 ☎(61) 4700

▶松岡洋右(写真/「人間松岡の全貌」所収 国立国会図書館ウェブサイトより転載)



は、外務省の元先輩である松岡に対し、「頭から水を浴びて少し落ちついてから行け」（同）と言いつつ放ちました。吉田の面目躍如たるエピソードでしょう。

しかし、総会において賛成42票、反対1票（日本）、棄権1票（シヤム・現タイ）という圧倒的多数で報告書が採択されると、松岡はその場から退場し、同年3月、日本政府は正式に国際連盟脱退を通告しました。吉田の危惧は現実のものとなり、日本の孤立は加速していきます。

## 旧吉田茂邸再建基金寄附者一覧⑫ (16件: 6月9日~7月13日)

7月13日現在、総額 44,925,054 円の寄附をいただきました。ご協力ありがとうございました。

(寄附受付順、敬称略)

氏名(名称)	住所(所在地)	寄附金額	氏名(名称)	住所(所在地)	寄附金額
平間 洋一	横浜市	※※※※※	大磯町区長連絡協議会	大磯町	¥240,000
高木 真紀子	広島県広島市	※※※※※	匿名	大磯町	¥5,000
植田 光子	長崎県長崎市	¥10,000	匿名	大磯町	¥100,000
大和株式会社	大磯町	¥50,000	株式会社アマダ	伊勢原市	¥1,000,000
重田 照夫	大磯町	¥50,000	中郡医師会大磯班	大磯町	※※※※※
大貝 憲三	平塚市	¥10,000	匿名	茅ヶ崎市	※※※※※
三宅 豊	東京都目黒区	※※※※※	あつぎ観光ボランティアガイド協会	厚木市	¥5,000
匿名	※※※※※	¥10,000	湘南大磯クリニック 院長 齋藤 達也	大磯町	※※※※※

※上記のほか、4名の方から113,000円のご寄附をいただいております。

※寄附総額のうち72,380円は、役場本庁舎1階及び地階設置の旧吉田茂邸再建応援自動販売機の売上実績分の寄附額です。

◎問い合わせ 都市計画課 ☎内線 243